

# 「共用ストレージ東拠点ポータル」 の整備状況と今後の拡充方針

2019/2/1

中 誠一郎(東京大学)

# 発表趣旨

- 「共用ストレージ東拠点ポータル」に至るニーズとシーズ
  - ニーズ(用途)
  - シーズ(設置経緯)
- 「共用ストレージ東拠点ポータル」の構成
  - 位置付け
  - データハブの実装方式
  - データハブのサービス内容
- 「共用ストレージ東拠点ポータル」の拡充方針
  - 今後の拡充方針(課題)
  - 利用者持ち込みサーバの扱い

# 「共用ストレージ東拠点ポータル」に至る ニーズとシーズ

- ニーズ(用途)
- シーズ(設置経緯)

ニーズ(用途)

# 共用ストレージの新たなニーズ

- 今までは、専らアーカイブ用途
- 共用ストレージの利用活性化の芽
  - 「京」のサービス停止に伴い、新たなニーズが浮上
  - HPCIの産業利活用の促進に伴う、新たなニーズの発掘

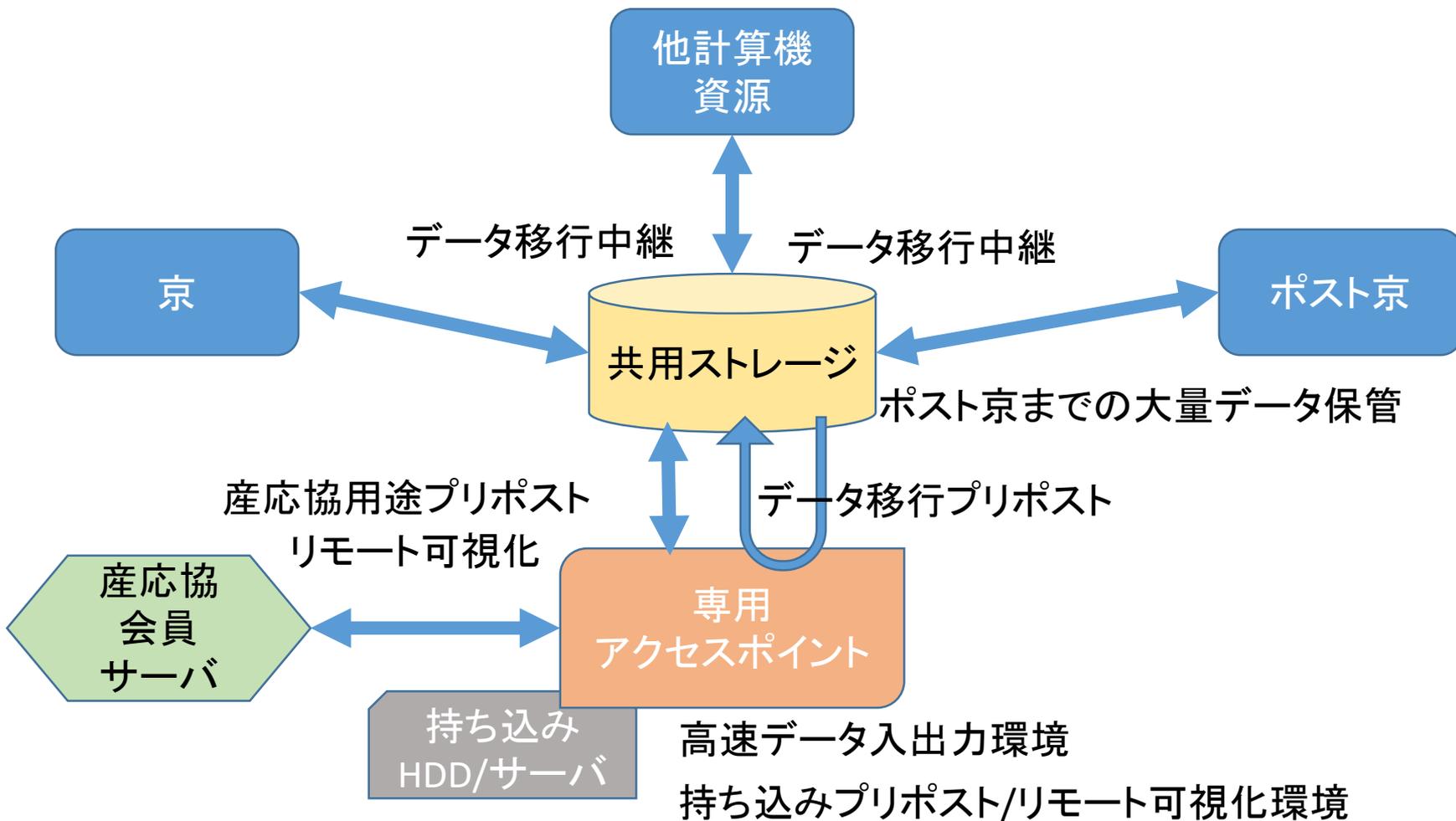
# 「京」のサービス停止に伴う新たなニーズ

- ポスト「京」運用開始までの保管用途
  - 共用ストレージの提供容量増は達成済み(21PB→90PB)
- 計算資源間のデータ移行用途
  - 2019年度から早々に開始
  - 保管スペースが当然必要だが、単なる保管機能だけでは不十分
  - 異なる計算資源へのデータ移行に伴うプリポスト処理が必要
  - クラウド的な共用ストレージ上のプリポスト処理実行環境を提供できれば理想的だが、、、
  - 共用ストレージに隣接したプリポスト処理実行環境が現実的

# 産業利活用の促進に伴う新たなニーズ

- 2016年度からHPCI全体で産業利活用の検討開始
  - 産応協の提言活動チーム発足
- 産業界は情報セキュリティ、データハンドリングを懸念
  - 情報の社外持ち出し時のセキュリティ対応
  - データのダウンロード速度
- 現状、アクセスポイント神戸・東京が実質的な接点
  - アクセスポイント利用時のHDDハンドキャリーの煩雑さ
  - 社内持ち込み時のセキュリティ対応
- 共用ストレージ自体の産業利活用の可能性
  - 共用ストレージ活用の観点欠如
  - 共用ストレージ直結の専用アクセスポイントの提供

# ニーズの整理



# ニーズの集約⇒専用アクセスポイント

- プリポスト処理環境の提供
  - 計算資源間のデータ移行促進のためのプリポスト処理
  - 産応協会員用途向けのプリポスト処理
  - データハンドリング効率化のためのリモート可視化環境
  - 持ち込みサーバによるプリポスト処理・リモート可視化環境
- データ入出力環境の提供
  - 持ち込みHDD/サーバへのデータ入出力環境

シーズ(設置経緯)

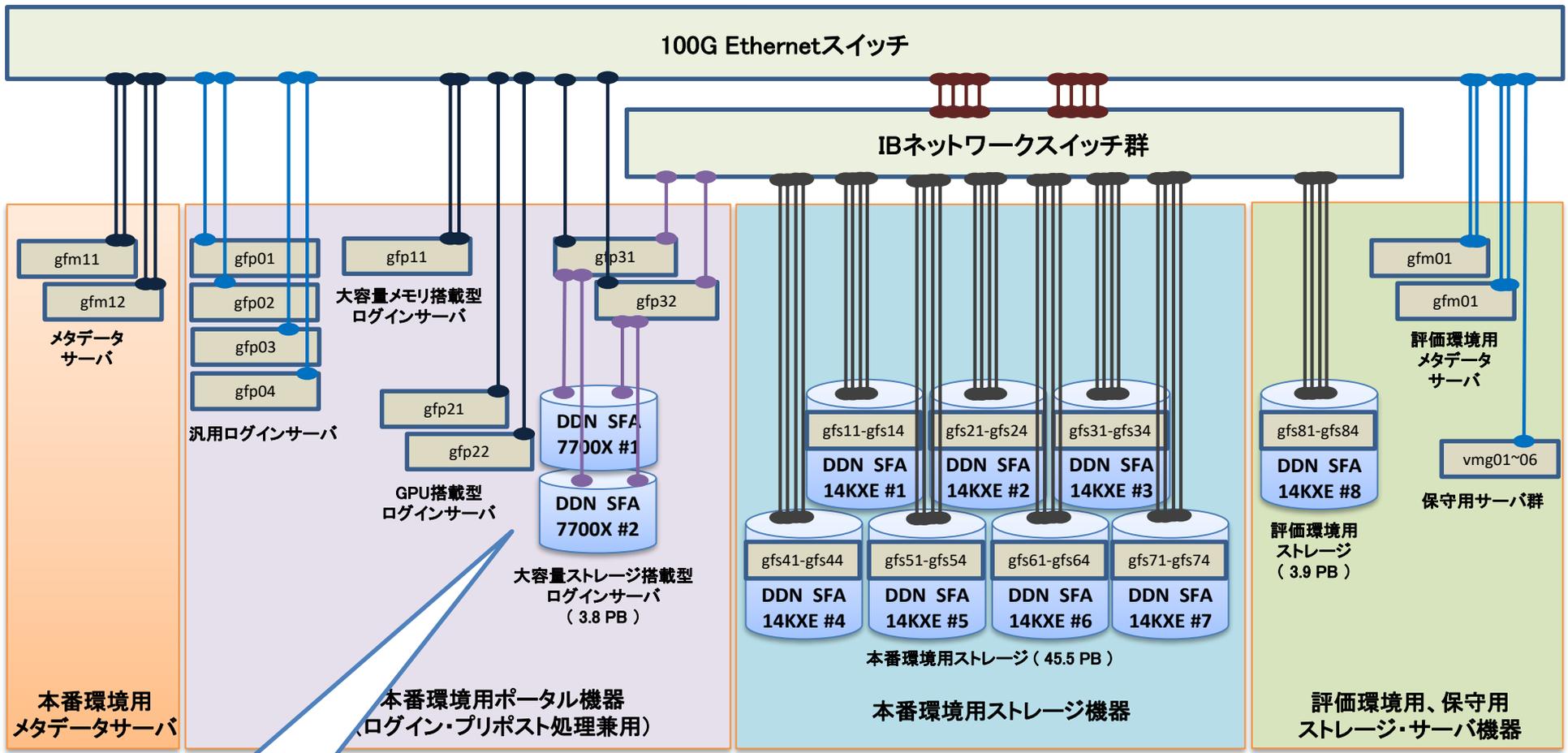
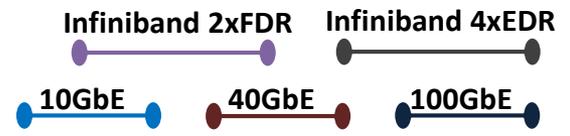
# データ保存用ストレージの転用

- 当初の想定用途(2016年度)
  - SFA7700X 3.8PB
  - データ保存課題の専用格納領域の提供
  - 万一、共用ストレージが第一期のみで終了した場合の保険
- 共用ストレージ第二期提供決定後の用途(～2017年度)
  - データ保存課題の専用格納領域の提供は不要
  - 第二期機材更新時のデータ中継用途として大活躍
- 共用ストレージ第二期運用開始後の用途(2018年度～)
  - 更新ストレージ機材(SFA14KXE)とのスペック差が大きいため、本番環境での混在利用を断念
  - 大容量ストレージ搭載型ログインノードへの転用により、データハブとして利活用



東大柏キャンパス

100G 直結



ログインサーバ 転用

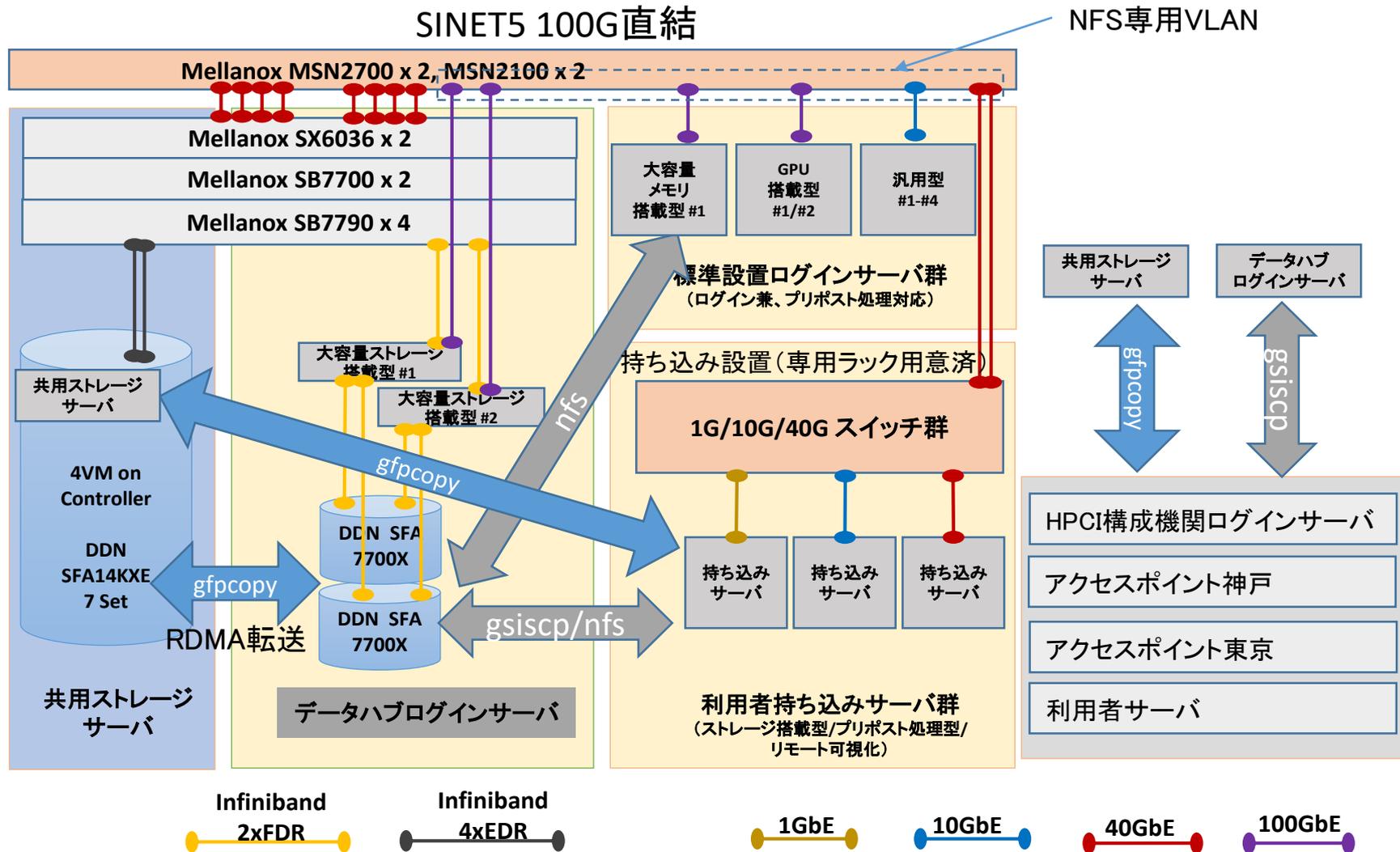
# 「共用ストレージ東拠点ポータル」の構成

- 位置付け
- データハブの実装方式
- データハブのサービス内容

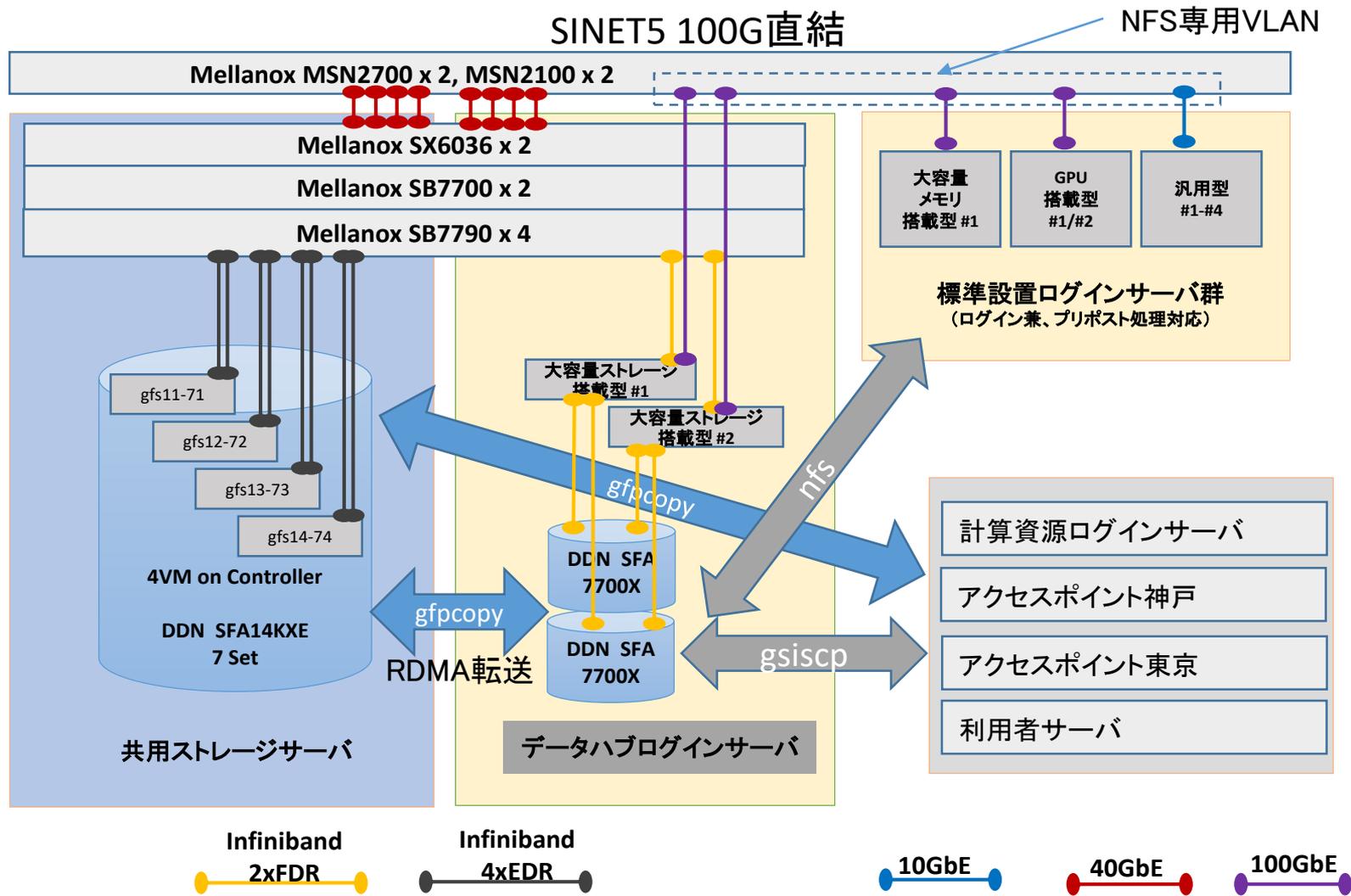
# 位置付け

- 専用アクセスポイント(アクセスポイント柏)が最終構想
- 当初はデータ入出力環境の提供を保留
  - アクセスポイントの役割であり、文部科学省、HPCIコンソーシアムの承認要
  - アクセスポイント神戸・東京との役割分担が未調整
    - 神戸・東京:HDD持ち込み、柏:サーバ持ち込みの分担が共存案
  - 持ち込みサーバのセキュリティ担保の実装方式・運用方法が未確定
- 「共用ストレージ東拠点ポータル」 =  
「アクセスポイント柏」 — (データ入出力環境)

# アクセスポイント柏(最終構想)



# 共用ストレージ東拠点ポータル構成(2018年度)



# データハブの実装方式

- データ保存用ストレージサーバの転用
  - 3.8PBの大容量ローカルストレージ搭載
- 共用ストレージとの転送
  - 東拠点の共用ストレージサーバと同一IBネットワークに接続
  - 共用ストレージサーバとのRDMAによる高速転送
- 対外サーバとの転送
  - 対外サーバ(計算資源ログインサーバ、アクセスポイント神戸・東京、利用者サーバ)
  - 対外サーバとのgsiscplによる高速ファイル転送
- プリポスト処理サーバ間のデータ共有
  - ログインサーバ間は100Gbps直結
  - NFSマウントによるデータ共有
- NFS専用VLAN設置
  - NFSトラフィック分離
  - 持ち込みサーバ(サービス提供未決定)に対するセキュリティ対策の布石

# データハブのサービス内容

- gfp31: 一般の課題利用者向けのデータハブ
  - 合計2PBを課題毎共有領域として提供
  - 割当容量(クォータ設定値)は、該当課題への共用ストレージ割当容量の10分の1とする(ただし、最小 1TB、最大 50TBとする)
  - ホームディレクトリ領域(合計450TB)も提供  
利用者毎の割当容量(クォータ設定値)は、500GB
- gfp32: テストアカウント(hp120273)課題を含め、予備用(増枠等)のデータハブ
  - 予備の課題毎共有領域として提供
  - hp120273課題向け: 主に共用ストレージ内部向けに提供
  - 一般課題向け: gfp31の一般割当枠以上の増枠を要望している課題等、状況に応じて提供

gfp31		gfp32		
課題に分配	/home	内部向け hp120273	予備 (増枠)	予備 (増枠)
	2 PB	450 TB	450 TB	450 TB

# 「共用ストレージ東拠点ポータル」の拡充方針

- 今後の拡充方針(課題)
- 利用者持ち込みサーバの扱い

# 今後の拡充方針(課題)

- 今年度(2018年度)は、「共用ストレージ東拠点ポータル」のハードウェアのみの提供に留まっている
  - 計算資源間のデータ移行でどのようなプリポスト処理が必要か
  - 産応協向け用途でどのようなプリポスト処理・リモート可視化環境が必要か
  - そのためのソフトウェアとして何が必要か
  - どこまでを標準機能として提供すべきか
- 「アクセスポイント柏」へ昇格するために、利用者持ち込みサーバをどう扱うかで、3つのレベル
  - 利用者持ち込みサーバは、一切許可しない(レベル0)
  - 利用者持ち込みサーバには、東拠点内の高速ネットワークへの接続を許可するだけ(レベル1)
  - 利用者持ち込みサーバには、NFSアクセスまで許可する(レベル2)

# 利用者持ち込みサーバの扱い

- レベル1（東拠点の高速ネットワーク接続のみ）
  - ストレージ内蔵の持ち込みサーバとの高速なデータ転送が可能であり、HDDのハンドキャリーの煩雑さが無い
  - セキュリティ面では、持ち込みサーバ上のデータ保全の課題有り
- レベル2（+NFSによるデータ共有）
  - プリポスト処理・リモート可視化のソフトウェアは利用者側で自由に選定、利用可能
  - セキュリティ面では、持ち込みサーバ上のデータ保全に加え、利用者持ち込みサーバのRoot権限問題（他課題データアクセス）有り

## 関連サイト

<http://oss-tsukuba.org/event/gw2019>

<https://www.hpci-office.jp/info/display/cnt00011>